



# 佐伯史談

第八十七号

「郷土史研究」誌  
通算第百九号

昭和四十八年三月二十日発行

## 佐伯史談 会

事務所 佐伯市大字福垣字龍護寺 羽柴芳

主張

### 吾等何をなすべきか

― 身近にあるものを手がけて ―

会員 羽柴 弘

いったい史談会とは何であるか。何を目指しなされるか。いかにあるか。会員はどうしたらよいのであるか。ここらで一応考えて見ることも無駄ではあるまい。

佐伯史談会は今、普通会員約二〇〇、賛助会員一四一、客員会友五八、合せて約四〇〇名に、年間六回隔月にこのような機関誌「佐伯史談」をおく作りしている。いまだが活版印刷にふみきれぬが、号数もやがて九十号に近づいて、地元でもかなりよい評価をいただいているようである。しかしこのままでよいものであるか。いつも反省検討をくりかえしている。

表看板である郷土史、郷土文化の研修行事にして、参加者、出席者が案外少ない。もともと、佐伯市及び近郊の会員となると、おおよそ百ニ三十名、年間を通じての参加者はせいぜいその三割程度である。これは会員が

比較的四十才台を中心にしていて、それぞれ毎日職場で働いている。日曜日はまた家庭で仕事や、家長としての立場から自由にならないうという歎きがある。六十才以上で、いつでも自由に散歩かれるものは僅かに、三人といふた状態である。この「佐伯史談」の製本も發送にも加勢してもらう人がない始末で、どうにもならぬ。

そればもうやむを得ぬこととして、私はここで一般会員の方々に次のことを希望したい。お忙しい毎日であるが、どうかこの「佐伯史談」だけほいてほしい。この「史談」はどうか幾晩かかかろうかがお読みになつて、そして次々と綴りこんで保存していただきたい。これは貴重な郷土の歴史と

### 本号の献名

- 吉原 吾等何をなすべきか(羽柴弘)……
- 研究 龍護、矢野文雅先生(小原武藏)……
- 研究 佐伯城絵図解説(小野英彦)……
- 研究 氏甚品の宝庫(古野順仁)……
- 〃 ふるさと(山回録(山口正清)……
- 〃 豊 志沢の桜(郷土唱歌)……
- 研究 村のいろ(女馬書(安部洋右門)……
- 研究 羽柴補正歴史書(羽柴)……
- 研究 横川先生と佐伯(山本 保)……
- 研究 縁故の地をたづねて(長谷川幸)……
- 研究 知の南史談会とその歩み(富沢泰)……
- 〃 孫次郎具駿動始末記(小野木)……
- 研究 御殿御法度書(米失勘助)……
- 〃 象 鞞船伝承(月見俊介)……
- 〃 〃 御制と後半(郡長)……
- 〃 〃 信濃路の旅(富高辰洋造)……
- 〃 〃 外集會寺 案内

文化を、かなり細々と書きとどめた資料集である。

次に、会員それぞれ所在の町や村にあるものの調査法  
をすすめていただきたい。まず足許から、路傍の石仏  
や蔭の石塔、神社や廢寺の境内にある鳥居、燈籠、建  
築、信仰行事など、何なりと調べて記録にとどめる。そ  
れは何百年來その所地村の人々が、且つてそれを建教し  
、年々これを祭りつづけ、守りつづけて來たもので、先祖  
たちの愛情の遺産である。吾等も郷土に對して、先祖た  
ちに負けない愛情の持ち主でありたい。

いつたい、吾等の郷土には、すぐれた歴史や文化財や  
他に比類ないほどの景勝の地や民俗行事があるのではあ  
るか。私は正直なところそれらは極めて少なく、微力な  
私たちにはちよほどよい程度しかないと思ひこんでいた。  
ところかしらべの進むにつれて、あるわあるわ、素晴ら  
しいものが次々と出て來るのである。既に先輩がしらべ  
つづけているかで見えていたものも、仔細に実地や文献  
について見ると、誤りがあったり、ずさんで正確はその本  
質をついていなかっただけ、いさゝか問題があることがわ  
かった。

他に誇るに足る史跡や文化財にも恵まれてはいる。かな  
り多い。觀光価値の高い景観も多く、独特な民俗風習も  
佐伯南郡を通じて豊富である。今それらを思い浮かぶま  
まに書き並べて見ると――

先づ城山、鶴屋城の城趾が殆んど完全に残っていて、  
そこからの眺望のすばらしさ、椿山・米茶山・元越山な  
どを見はるかし、うねりつゝ流るる番匠川や堅田川、そ  
の底にそつて湖けている田圃や集落の美しさ、佐伯湾  
は二つの増を玄けて大小の島々を中に溶べている、こん  
な城跡はどこにあるか。しかも國木田独歩の「春の鳥」  
などの文藝まで添えられてははいか。

山麓の三ヶ丘から養賢寺にかけての、城下町の面影を  
止めていたたはずまい、よそにはない。

又郊外の田圃地帯に残る社寺や、石造文化財にもすく  
れたものが多し。佐伯神楽、堅田踊、風流杖踊のような  
民俗行事も一つと見直すべきである。佐伯市狩生から宇  
目町にかけて走る石灰岩の岩脈に發達している、大小の  
鐘乳洞や石灰洞穴の多さ、その内蔵する鐘乳石や洞内生  
物など、学術的な多彩さ、未発見が残されている。

直川、鶴見、羊水津、蒲江の各町村に残っている江戸  
時代の庄屋文書も、手掛けたら興味津々、当時の庶民生  
活が、治められる側からの声か、そのまま書き留められ  
ていてつきない。安部老が手がけている「羽出浦庄屋文  
書」のように、よい記録として後世に残るであろう。

宇目町には重岡の「るいざの墓」や、塩見園の宝塔、  
深田代官の墓などのように特異なものが多い。

佐伯市内地池考の構内毛利家の倉庫に眠っている武具他  
什器、御用日記のように数百冊のほろ藩政資料、高標  
俵の集められた佐伯文庫本、天下一品とは言われないが果  
内では殆んど類例のない文化財である。

教えたけたらきりかないなでこか辺でおくが、もっと  
会員の身近にあるもの、朝晩接しているものまで含め、  
御土の文化遺産を、吾等が手がけなくてはならない。な  
やなら現在の社会情勢は、宇急で古いものを捨ててかえ  
り見ることもなく、自然破壊がほとんど人進み、文化財は消  
えてなくなつてある。

この辺に老ら史談会員が、今すぐにも手がけねばなら  
ぬ研勝や保護の仕事があるように思う。

幸い会員は都部各町村にあつて散在している。どう  
か会員一人一人がその周辺を持ち場として、コツコツと  
地道な努力を積み重ねてほしいものである。